

令和3年度（2021年度）中央大学と八王子市図書館による共同研究 中間報告会の実施結果について

1 趣旨

八王子市図書館では、平成29年（2017年）7月から、中央大学研究推進支援本部と締結した共同研究協定書（以下「協定書」という。）に基づき、読書のまち八王子の推進に向けて、本市における図書館整備及び関連教育の向上を図ることを目的に、中央大学と共同研究（以下「本研究」という。）を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、令和2年度（2020年度）は本研究を休止していたが、令和3年度（2021年度）に協定書を改訂し、再開することとした。

このたび、平成29年度（2017年度）から実施してきた研究の成果が「まちづくり研究はちおうじ第16号」に掲載されたことを受け、これまでの研究の成果のまとめを報告するとともに、令和3年度（2021年度）の研究テーマ及び研究従事者を紹介するため、中間報告会を開催したため、その実施結果について報告する。

2 内容

（1）日時及び会場

令和3年（2021年）11月4日（木）午後6時から7時まで

会場：八王子市中央図書館 3階 視聴覚室

※試みとして、Zoomによる配信を行った。

（2）内容

ア 中央大学 小山教授による基調講演

（ア）タイトル

「中央大学と八王子市図書館との共同研究は第2ステージへ」

（イ）内容

「まちづくり研究はちおうじ 第16号」を前提に、共同研究の概要及び成果について発表した。

イ 令和3年度（2021年度）研究テーマ及び研究従事者の紹介

下記の8つの研究テーマ（予定）及び各テーマの中央大学側の研究従事者を発表した。

- ① 読書感想文の分析
- ② 市図書館の利用動向の分析
- ③ 市図書館サービス満足度調査の分析
- ④ 電子書籍の利用実態の分析
- ⑤ 市内高校生・大学生の不読率の調査・分析
- ⑥ アフターコロナにおける市図書館対策
- ⑦ ブックスタートによる市図書館利用の変化
- ⑧ 公立図書館における Twitter を活用した広報活動とその効果、課題

(3) 参加人数

今回は、一般の方は Zoom による参加とし、入場者は関係者及び市職員に限定する対応とした。

○市図書館関係者	5人
○中央大学関係者	8人
○市職員	12人
○市図書館職員	5人
○一般 (Zoom)	12人
合計	42人

(4) 参加者の主な感想

- ・改めて、データ活用の意義を実感し、その難しさについて深く考えるきっかけになった。
- ・経年のデータ分析ができるとよい。
- ・とても良い報告会だった。担当を離れた方も何かの形でかかわっていることをうれしく思った。
- ・オンラインと対面の報告会でよく工夫されていると思った。地域資源としての大学の力を借り施策を展開する手法は他の所管や企業でも役立つものと感じた。
- ・参加した職員のデータ収集・分析スキルの向上につながるとよい。
- ・今日はまとめとして八王子のデータのみが示された。難しい点もあるだろうが、八王子の特色を知る上では他地域との比較も重要なことと思う。
- ・過去の研究がまとまったものがあるとよい。
- ・地域利用実態の可視化は衝撃的だった。あのような研究が今後もできるとよい。
- ・第2ステージを期待している。